

2020年4月11日

生徒・保護者の皆さんへ

オルタナティブ・スクールあいち惟の森 校長 青野桐子

NPO法人あいち惟の森 代表理事 伊沢令子

◇新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大対策として、4月10日に愛知県が独自の「緊急事態宣言」を发出了しました。同時に、名古屋市が臨時休校の期限としていた4月19日を5月10日まで延長しました。

◇これに対し、緊急にスタッフで協議した結果と理由をお伝えします。急なお知らせで申し訳ありませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◇なお、判断の視点は、4月6日にお示しました以下の4つに変わりはありません。

[視点1] 健康・命を第一に考える。

[視点2] 生徒の学びや遊びを保障する。

[視点3] 休校時の生徒や保護者の家庭の事情を配慮する。

[視点4] 医療崩壊など社会への影響を考える。

●1. 来週4月13日(月)～17日(金)について

- ◇ 当初、週2日登校としていましたが、登校をしないようお願いします。
- ◇ 「休校」という形ではなく、一部オンライン学習・活動を取り入れ、自宅での学習支援を行います。
- ◇ 基礎学習に関しては、今週、生徒が4月17日(金)までの学習計画を立て、教材等を持って帰っています。
- ◇ オンライン学習・活動に参加できない生徒については、何らかの配慮を考えます。

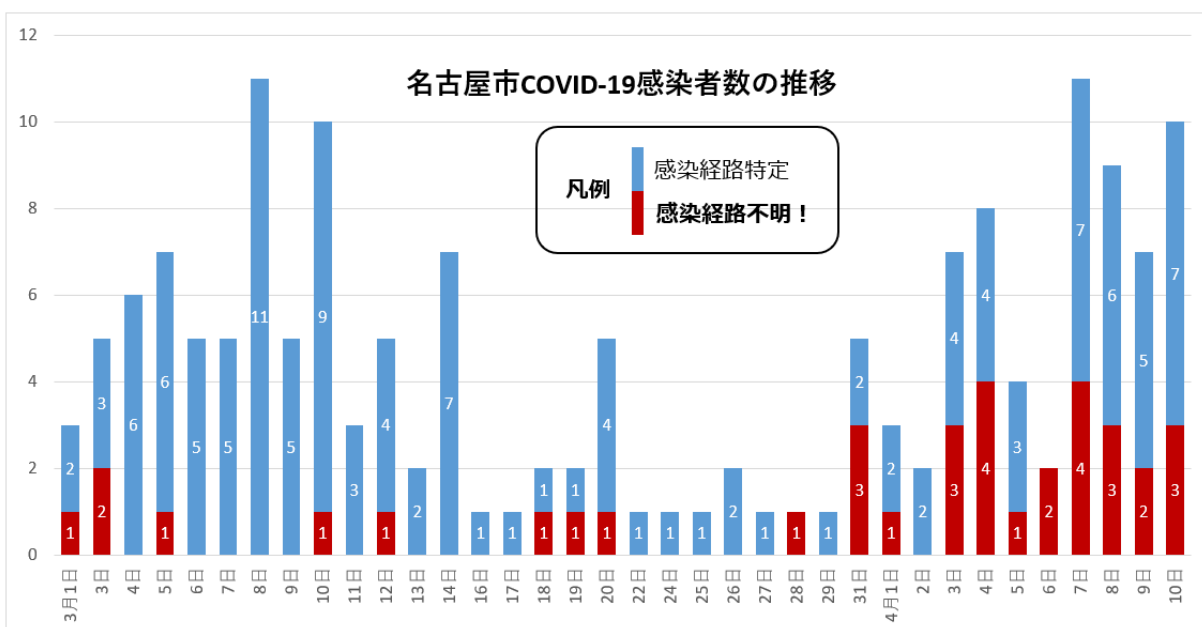
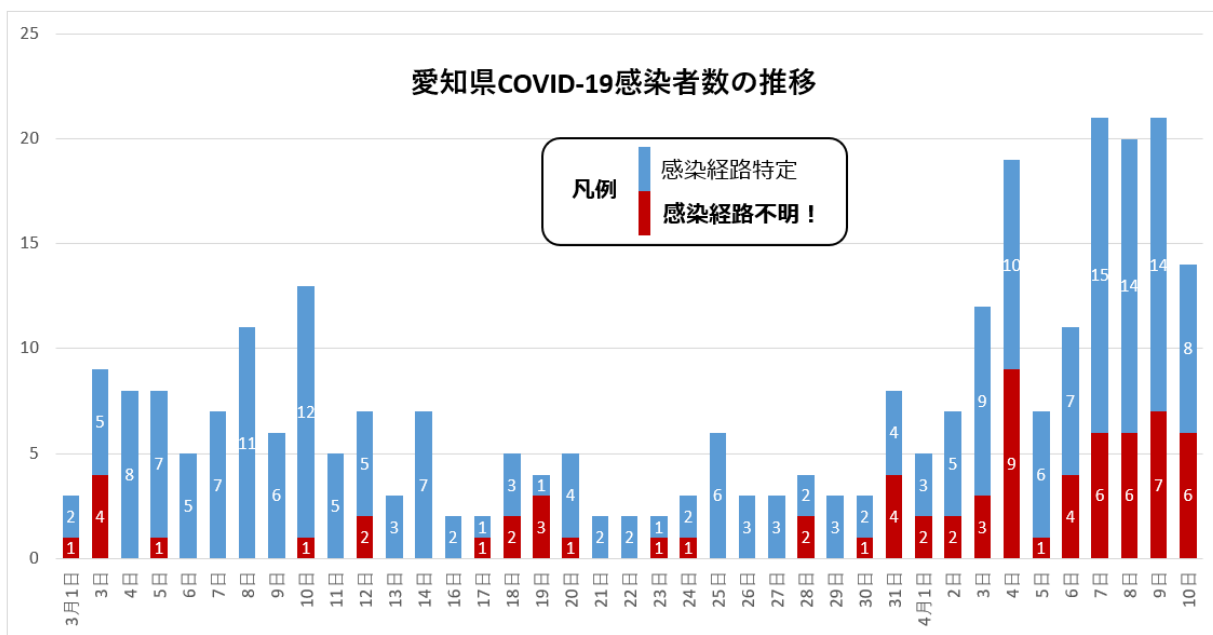
<理由①…「視点4:医療崩壊など社会への影響を考える」の観点から>

◇ 4月6日付けの案内では、「愛知県に緊急事態宣言が出されたら、視点1と視点4を重視し、県内全域の臨時休校に足並みを合わせて、指定期限まで臨時休校とします。」としていましたが、今回は「愛知県独自」の宣言で、国の専門委員会の判断と異なるとの報道もあり、どう捉えたらよいかとても悩みました。

◇ 医療崩壊が起きるか否かを判断するエビデンス(根拠)として、愛知県および名古屋市の3月以降の感染者数の増加状況、感染経路不明者数を見ると、直近数日では悪化しているように見えますが、東京や大阪のように急増とまではいっていないとも言える状況です(次ページ図参照)。

◇ 一方、「新型コロナウイルス対策ダッシュボード」ウェブサイトによると、愛知県の感染症病床は、4月9日現在、250床に対して、現在感染者数(退院・死亡を除く)が225人となっており、医療資源としてはかなり逼迫している状況といえます。

◇ 今後、さらに悪化するのか、あるいは踏みとどまるのかは正直わかりません。しかし、7都府県における緊急事態宣言による名古屋市への悪影響も懸念され、無症状感染者もそれなりにいることを想像すると、今後の感染者の動向を見極めるまでは、「大きく構えて」に足並みを揃えて、登校しない形にすることがよいとの判断に至りました。



<理由②…「視点1:健康・命を第一に考える」の観点から>

- ◇ 今週、木曜と金曜に、特別カリキュラムで学習・活動を行い、COVID-19 感染対策として3密を避けるよう配慮してきましたが、ご想像に難くないように、特に低学年においては、「密接」を避ける状況を維持することは難しく、マスクの着用や適宜の手指洗いをすることも100%できるものではなく、感染対策に限界がありました。
- ◇ また、4月に入ってから、愛知県における10代未満の感染者が12人と増え、4月6日には名古屋市で経路不明での中学1年生(感染当時は小学6年生)の感染も報道され、不安要素となっています。
- ◇ もちろん、惟の森に来なければ、感染リスクをゼロにできるものではありません。ですから、視点2、視点3の観点から、双方納得のうえで登校してもらうことはこれまでもあったように、今後もありうと思います。
- ◇ ただ、それには、感染リスクの許容度について、保護者の皆さんと確認する必要があります。しかし、現状必ずしもそれができているとはいえず、感染対策の限界から健康と命を第一とする責任を果たせないという判断に至りました。

●2. 4月20日（月）から5月10日（日）までについて

- ◇ 愛知県および名古屋市における COVID-19 感染者の推移、感染症病床の確保状況などの動向、国による緊急事態宣言の発出の有無を勘案して、4月17日（金）までに、生徒や保護者のご意見も伺う機会を持ちながら、あいち惟の森としての対処方針を決めたいと思います。
- ◇ 少なくとも、国による緊急事態宣言が出された場合には、指定期限までは、基本的に登校しない形による学習・活動となることは予めご了承ください。

●3. COVID-19 感染期における今後のあいち惟の森の学習・活動の基本的考え方について

- ◇ いつ収束するかわからない COVID-19 感染期において、あいち惟の森として、「視点2:生徒の学びや遊びを保障する」、「視点3:生徒や保護者の家庭の事情を配慮する」を大切するために、以下のような基本的考え方で、あいち惟の森の学習・活動を進めていきたいと考えています。

「生徒を誰も置いていかない」と「惟の森の基本理念を求め続ける」

- ① 学校を開け登校することにしても、COVID-19 が不安で来られない生徒（保護者）いることに配慮する。
- ② 学校を閉めて、オンライン教育を導入しても、仕事等に対応できない保護者（生徒）があることに配慮する。
- ③ オンラインは手段の1つに過ぎず、あいち惟の森の基本理念、カリキュラムを実現できる方法を探り続ける。
- ④ オンライン学習だけでは生徒も保護者もフラストレーションが溜まるので、「遊び」や「リレーション（関係づくり）」についても考える。リレーションについては、新1年生・転入生に特に心を配る。

- ◇ 現時点で、①～④について、確固たる方法があるわけではありませんが、まずは来週から実験的に行動に移し、さらに考え、よりよい形を求め続けていきたいと考えています。
- ◇ すべてが初めてのこととなるため、試行錯誤もあると思います。ご理解とご協力いただければ、皆さんと共によりよい惟の森を創っていければ、と思います。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

以上